

生徒指導部通信

令和5年度第2号

令和5年6月30日

文責：佐藤実和子

新年度から3か月が経ちました。学校祭準備期間も始まり、大きな行事に向けて主体的に取り組んでいることと思います。

第1号の生徒指導部通信で、『様々なことを“自分ごと”として捉え、自分の行動を振り返り改善できること』を目的に通信を発行していくと伝えました。今回は、「制服」と「集団心理」について取り上げます。ぜひ、“自分ごと”として読んでほしいです。

■ 制服を着ること

私が高校受験の時、受験校を決める判断基準の一つは「制服」でした。道新受験情報や学校のホームページに載っている制服を見て、「こんな可愛い、かっこいい制服を着てみたい!」という憧れがありました。実際に真新しい制服に袖を通すときにはワクワクが止まりませんでした。制服を着ることによって、学校を背負っているような気分にもなれました。

大人になってから読んだ評論の中に「制服効果」という言葉を見つけました。制服効果とは、制服を着用することで、自覚や誇りを持ち、物事に対して責任を持って行動するようになることを指します。例を挙げると、警察官や看護師がその代表と言えます。私が高校生の時に抱いたワクワクが、まさに「制服効果」だったので

皆さんが普段着ている制服にも「制服効果」が発揮されています。それは、「えりも高校生である」ということです。学校にいるときはもちろんのこと、登下校時、大会の会場、見学旅行や海外研修でも、制服を着ているときは「えりも高校」という名前を背負っているのと同じです。そのように制服を着るからこそ、着こなしをより一層意識してほしいと思います。社会に出たときに、困らないための練習の場が学校です。社会人になって、だらしなくスーツを着ている皆さんを見たくありません。夏季略装期間ではありますが、正装する際はピシッと着こなす皆さんを見るのが楽しみです。



■ 集団心理の側面

集団心理とは、人が集まったときに生じる集団特有の（1人のときとは異なる）心理状態を指します。集団心理が働くと、自己の言動への責任感が薄れたり、冷静な判断ができず集団に流されたりしやすくなります。集団心理が働くと、モラルや罪悪感が低下したり、力を持ったと錯覚したりして、いじめ行為に及ぶことがあります。

また、いじめている集団にいて、客観的に見ればやめるべきことだとしても、次第にそれが少数派となります。いじめを普通のことだと認識し、疑問に思わなくなることで、いじめが継続されていきます。

このように恐ろしい側面を持つ集団心理ですが、効果的な側面もあります。集団心理が作用すると暗示性が高まり、個人の思考や判断に影響します。そして、集団で同じような言動を取ることで連帯感が高まり、集団内の結束が強くなることが挙げられます。この作用を存分に発揮できるのが学校祭です。学校祭準備期間ではクラスや学年で一つの目標（クラステーマ）に向かい、えり高祭を成功に導けるよう、結束を高めてください。

準備期間中はお互いぶつかり合うこともあると思います。27日（火）のLHRで学んだように、お互いを尊重し認め合い、感性を育む有意義な時間にしてください。

